

○令和3年度教育事業 「教員免許状更新講習」 【R3.7.28（水）～30（木）】



**2021 7/28(水)～30(金)**  
 国立大雪青少年交流の家 (上川郡美瑛町字白金)  
 5月1日(土)受付開始! 交流の家のHPから申込用紙をダウンロードしてお申込みください!  
 対象者: 令和3・4年度末が修了期限の教諭 ※幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校  
 詳しくは開催要項を御覧ください。

**2022 1/6(木)～8(土)**  
 国立日高青少年自然の家 (沙流郡日高町字富岡)  
 ※募集時期は改めて御案内いたします。

◆目的

児童生徒の自尊感情や自己肯定感の醸成、社会性や豊かな人間性を育むとされる体験活動を学校教育において、より充実させるため、教育課程全体と体験活動を往還させた計画づくりや体験活動を実施する上での指導のあり方、安全管理について、講義や演習をとおして理解を深め、指導技術や知識の向上を図ります。

◆参加実績（定員35名）

- 参加者 8名
- ・小学校教諭・・・2名
  - ・中学校教諭・・・3名
  - ・高等学校教諭・・・2名
  - ・特別支援学校教諭・・・1名

◆プログラム

- ① 講義「教育の現状と課題」・・・(90分)  
 北海道教育庁上川教育局教育支援課長 泉 大吾 氏  
 子供たちの今日的な課題や、今の学校や教師に求められることは何か、講義を通して理解を深めた。
- ② 講義「実際の体験活動と指導法1～幼児期における体験活動の意義と活動の実際～」・・・(120分)  
 旭川大学短期大学部 教授 佐藤 貴虎 氏  
 幼児期における定型発達について理解を深めるとともに、幼児教育に身に付けたい力とは何かを知り、子供の発達段階に応じた視点をもつ重要性を学んだ。
- ③ 講義・実習「体験活動の教育活動への活用～コミュニケーション能力を高めるアクティビティ～」(180分)  
 東海大学 教授 ハミルトン・マーク・C 氏  
 コミュニケーション能力を高める野外アクティビティを体験し、人間関係づくりにおける体験活動の意義や、体験活動を用いた教科指導の手法について、実技を通して理解を深めた。



- ④ 講義・実習「実際の体験活動と指導法～自然体験活動と安全管理～」・・・(330分)  
北海道教育大学岩見沢校 准教授 濱谷 弘志 氏  
野外での活動をとおり、子供たちが主体的に取り組む自然体験活動の実際と、安全管理の技術について理解を深め、自然体験活動の指導方法を習得した。



- ⑤ 講義・実習「体験活動の教育活動への活用～宿泊研修に役立つ  
野外炊事の知識・技能～」・・・(180分)  
国立大雪青少年交流の家主任企画指導専門職 門前 詩織  
野外炊事の実習を通して、体験活動から何を学ぶのかという視点を持ちながら、教科と絡めた体験活動の在り方についての考えを深めた。



- ⑥ 講義「体験活動の意義（必要性）と学習指導要領上の位置づけ」・・・(120分)  
札幌国際大学 教授 佐久間 章 氏  
講義を通して、体験活動を重視するという学習指導要領改訂におけるポイントを理解するとともに、実際の体験活動を行っている映像を観ながら、エビデンスのある体験活動の意義について理解を深めることができた。



#### ◆事業運営・企画のポイント

- 3日間の講義の構成を工夫し、「現状の理解」⇒「自身で体験し、体験から学ぶ」⇒「まとめ」という流れを作ったことで、体系的な理解につなげることができた。
- 講義と講義の関係性を考えて、組み合わせながら講義・実習を行ったことで、次時の理解に繋がる活動・前時の理解を深める活動にすることができた。

#### ◆参加者の声

- 体験活動は、あくまでも手段であり、何を学ばせたいのかということ意識することが大切であるということが改めて認識できました。
- 若い世代の先生方が育ってきた環境を理解することで、どのような関わりをしていくのがミドルリーダーとしての自分に求められるのかがわかりました。休憩時間や夜の時間帯に、他の先生方と色々な情報交換ができたのもよかったです。

#### ◆事業の成果と課題

- ①受講者全員が、学習指導要領と体験活動との関わりについて理解を深めるとともに、履修認定試験に合格することができた。
- ②受講者が体験活動の重要性を理解し、学校現場において子供たちに体験活動を通じた教育を推進していく意欲を高めることができた。

